



4 **【学校の部活動に所属している生徒】**のみお答えください。聖籠中学校の部活動で感じる問題点を、下から**3つ以内**で選んで記号に○を付けてください。「ス その他」を選んだ場合は（ ）に理由を書いてください。特に問題を感じない人は「セ」に○を一つ付けてください。

- ア 部活動の時間・日数が長すぎる。
- イ 部活動の指導が厳しい。
- ウ 専門的な実技指導が受けられない。
- エ 顧問の先生と合わない。
- オ レギュラーになれない。
- カ ケガ等で活動ができない。
- キ 他の部員とよい関係がつかれない。
- ク 肉体的（精神的）な疲労がたまる。
- ケ 学業との両立ができない。
- コ 体がだるい。
- サ 家族の期待が大きい。
- シ 家族の理解がない。
- ス その他（ ）
- セ 特に問題はない。

5 **【全ての生徒】**がお答えください。土日祝日の部活動を教員以外の地域の指導者が指導する方式（※）について、あなたはどのように思いますか。一つ選んで記号に○を付けてください。

- ア 生徒にとっても、教員にとってもよい。
- イ 生徒にとってはよいが、教員にとってはよくない。
- ウ 生徒にとってはよくないが、教員にとってはよい。
- エ 生徒にとっても、教員にとってもよくない。
- オ 分からない。

左を選んだ理由（可能な範囲でお書きください）

**※地域の指導者が部活動を指導する方式について**

これまで土日祝日で行われる学校の部活動については、指導者の多くは学校の先生方でした。このような先生方にとって、生徒のみなさんと一緒に部活動をするのが大切な時間である一方、休養を取ったり、家族と過ごしたりする時間が取れなかったり、担当種目を指導した経験がなかったりするため、負担ともなっています。

そこで、平日に学校で行われる部活動（＝学校部活動）と土日祝日に地域で行われる部活動（＝地域部活動：スポーツ少年団のようなイメージ）とに分け、学校部活動は先生、地域部活動（スポーツ少年団のようなイメージ）は地域の指導者と指導を希望する先生が指導するという方法が考えられています。

ご協力ありがとうございました。

## 学校部活動に係るアンケート（保護者対象）

- 1 お子様について \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 組
- 2 お子様の現在の学校の部活動の所属状況について、当てはまる記号に○を付けてください。
- ア 所属していない。
- イ 所属している。
- 3 学校の部活動で最も意義があると思うものを2つ選び、記号に○を付けてください。ケを選んだ場合は、( )にその理由をご記入ください。コを選んだ場合は○を一つご記入ください。

- ア 大会・コンクール等で良い成績が得ることができる
- イ チームワークや協調性を身に付けることができる。
- ウ 体力や技術を向上させることができる
- エ 規則正しい生活習慣を身に付けることができる。
- オ 交友範囲を広げることができる。
- カ 忍耐力を身に付けることができる。
- キ 社会性（挨拶・礼儀等）を身に付けることができる。
- ク 放課後の居場所とすることができる。
- ケ その他 ( )
- コ 特段の意義はない。

- 4 これまで学校部活動は、主として学校の教員により運営されてきましたが、このことが教員の大きな負担となり、通常の勤務にも影響がでていくことが分かってきました。そこで、国は令和5年度から段階的に土日祝日の部活動を学校部活動から地域の指導者によるスポーツ活動（スポーツ少年団のようなイメージ）への移行と改革の方向性を示しています。（裏面＜参考資料＞参照）。
- このことについて、皆様の考えに最も近いものを1つ選んで、記号に○を付けてください。

- ア 賛成である。
- イ どちらかという賛成である。
- ウ どちらかという反対である。
- エ 反対である。
- オ 分からない。

左を選んだ理由（可能な範囲でお願いします）

ご協力ありがとうございました。

## 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革概要（令和2年9月1日：文部科学省）

### 1 部活動の意義と課題

- ・ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ・ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ・ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

**持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要**



### 2 改革の方向性

- ・ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ・ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ・ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

### 3 具体的な方策

#### I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- ・ 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保（育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- ・ 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- ・ 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

#### II. 合理的で効率的な部活動の推進

- ・ 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- ・ 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- ・ 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

